



2019. 7. 12

## 8月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園  
神戸 YMCA ちとせ幼稚園

最近、こどもが被害者となってしまった事件・事故が相次ぎました。

どのような事件や事故でも胸が痛みますが、登校バスを待っている小学生が襲われた事件、信号待ちの保育園児たちに乗用車が突っ込んだ事件、それらの報に触れたときは特に胸が潰れる思いでした。理不尽で、被害者に落ち度があるはずもなく、どう思いめぐらしてみても、肚に落とし込むことができない事件でした。そのようなときにはいつも、阪神淡路大震災の折、瓦礫と化した街を前にした先輩の「神さま、これを本当にあなたがなされたのですか。これは御心なのですか」という呟きを思い出します。

平穏な日々には容易く、神さまの恵みに感謝して暮らせます。しかし事件や災害を、その犠牲者の命が奪われることを、神さまの「恵み」と受け止めることはできません。

答えを求めて、本を読んだりネット検索したりしながら考え続けていますが、この問いはキリスト教にとって根源的な問いで、聖職者や研究者も「これだ!」という答えを提示できていないようです。

「神さまの御心を私たちが測り知ることはできません。神さまは最善を尽くしてくださいませ。全てを御手に委ねましょう」…と言われても、肝心のところを「はぐらかされた」感を否めません。どうやら今のところ、答えは何処にも落ちていないようですから、自分で考え続けることになりそうです。

1学期が終わり夏休みに入ります。幼稚園は、キャンプや夏期保育、長期休暇中だからこそその活動がありますし、個人的にも計画のあるところですが、原爆の日、終戦の日と、平和について考えるときでもあります。1学期の保育を振り返り、無償化への対応を含めて2学期の準備を進めようと思います。

### 年主題 『ことばに満たされて ～ひびきあう～』

<年主題聖句> 「その人は流れのほとりに植えられた木」(詩編1編3節)

### 8月主題 『やってみる』

<聖句> 「キリストはわたしたちの平和であります。」(エフェソの信徒への手紙2章14節)